

SCHEDULE 4→6月

展覧会スケジュール

推しがみつかる!?ミュージアム

2023	4月	5月	6月	Webサイトも チェック!
大阪市立 自然史博物館 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL:06-6697-6221 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日、 ただし3/27、4/3、5/1は開館)、年末年始	3/18~5/28 3/11~5/12 テーマ展示 「絶滅危惧種 東南アジアの霊長類 ~奥田達哉写真展~」 写真家の奥田達哉氏が2年間にわたり撮影し た東南アジア霊長類の絶滅危惧種の中から、 ユニークな約10種を20メートル以上にわたる 壁面での大型写真パネル展示でご紹介します。 特別展 「毒」 動物、植物、菌類、そして 鉱物や人工毒など、自然界のあらゆる ところに存在する毒について、各研究分 野のスペシャリストが徹底的に掘り下 げ、それぞれの視点 で解説していきます。			
	~5/28 プラネタリウム 「星空ぐるり百光年」 地球から近いところにある 星たちを、ぐるっと立体的に 見てみましょう! プラネタリウム 「ブラックホールを見た日 ~人類100年の挑戦~」 100年間、不可能だった ブラックホールの直接撮 影に挑んだ国際プロジェ クトEHTとは…? サイエンスショー 「空気パワー」 目に見えない空気には、とんでもない力があり ます。その力でできることとは?ふだん感じる ことのない、空気のパワーをご紹介します。 6/1~8/27 プラネタリウム 「シン・宇宙望遠鏡 ジェームズ ウェップ」 ©NASA, ESA, CSA, STScI 2021年12月に打ち上 げられた超絶級!新型 宇宙望遠鏡ジェームズ ウェップが観た驚異の 宇宙の姿とは!? プラネタリウム 「ORIGIN 太陽系のはじまりを求めて」			
大阪市立 科学館 大阪市北区中之島4-2-1 TEL:06-6444-5656 開館時間:9:30~17:00 (展示場入場は16:30まで、 プラネタリウム最終投影は16:00から) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日、 ただし5/1は開館)、5/29~5/31、年末年始	~5/28 プラネタリウム 「シン・宇宙望遠鏡 ジェームズ ウェップ」 ©NASA, ESA, CSA, STScI 2021年12月に打ち上 げられた超絶級!新型 宇宙望遠鏡ジェームズ ウェップが観た驚異の 宇宙の姿とは!? プラネタリウム 「ORIGIN 太陽系のはじまりを求めて」			
	4/28~6/26 特別企画展 「異界彷徨—怪異・祈り・生と死—」 天変地異や災厄の恐怖を克服するために人びと が想像してきた「異界」について、民俗・歴史・考古・ 美術などのさまざまな資料から考えます。 天狗像 江戸時代後期~明治時代 大阪歴史博物館蔵(中尾堅一郎氏寄贈)			
大阪 歴史博物館 大阪市中央区大手前4-1-32 TEL:06-6946-5728 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:火曜(祝日・休日の場合は翌平日)、 年末年始	~5/15 特集展示 「新収品お披露目展 —令和元年度から3年度まで—」 皆様からのご寄贈により近年新たに館蔵品 となった作品・資料のうち、未公開のものの中 心にお披露目します。 渡邊家住宅照明器具 大阪歴史博物館蔵(渡邊寛氏寄贈)			
	4/15~6/25 開館1周年記念特別展 「佐伯祐三—自画像としての風景」 最大級の質と量を誇る大阪中之島美術館の 佐伯祐三コレクションを中心に、代表作が一堂 に集結する15年ぶりの大回顧展です。			
大阪 中之島美術館 大阪市北区中之島4-3-1 TEL:06-6479-0550 開館時間:10:00~17:00 (展覧会会場への入場は閉場の30分前まで) 休館日:月曜、年末年始	~4/2 開館1周年記念特別展 「大阪の日本画」 明治から昭和に至る近代大阪の日本画に光をあて、60名を超える画家による約160点の作品を展示します。 開館1周年記念展 「デザインに恋したアート♡ アートに嫉妬したデザイン」 戦後日本のデザインを追いながら、同時代の アートを提示し、デザインとアートの境界や “重なりしろ”を考える展覧会です。			
	4/15~6/18 改修工事のため2025年春(予定)まで休館 ▶ 休館中もオンラインイベントなどを開催予定! 福島に貸出中! 福島県立美術館 「美をつくり—大阪市立美術館コレクション」 大阪市立美術館の所蔵作品の中から厳選 された約150件を、福島県立美術館でご覧 いただけます。			
大阪市立美術館 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内) TEL:06-6771-4874	3/21~5/21 東京に貸出中! 泉屋博古館東京 特別展 「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選1」 安宅コレクションから国宝2件、重要文化 財11件を含む名品101件を選び、珠玉の 東洋陶磁を紹介します。			
	3/18~5/21 木葉天目 茶碗 大阪市立東洋陶磁美術館 (住友グループ寄贈/安宅コレクション) 写真:六田知弘			
大阪市立 東洋陶磁美術館 大阪市北区中之島1-1-26 (中央公会堂東側) TEL:06-6223-0055	改修工事のため2024年春(予定)まで休館 ▶ イベントの詳細や視聴方法はWebでチェック!			
	3/18~5/21 東京に貸出中! 泉屋博古館東京 特別展 「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選1」 安宅コレクションから国宝2件、重要文化 財11件を含む名品101件を選び、珠玉の 東洋陶磁を紹介します。			

OSAKA MUSEUMS

次号vol.25は
2023年6月発行予定です



「OSAKA MUSEUMS」vol.24 2023年3月10日発行
 発行/地方独立行政法人 大阪市博物館機構
 〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内
 TEL:06-6940-4330(代表)
 制作/株式会社ウィルコミュニケーションデザイン研究所



アンケートに
ご協力ください
抽選でチケットをプレゼント!



OSAKA MUSEUMS

見て、感じて、
開け好奇心。

VOL. 24
2023.4→6
TAKE FREE

愛を語る。

学芸員が



知るほどに、深まる愛。

わたしの推し活。

ミュージアムの学芸員は、資料を収集、保管展示、調査研究などを担う専門家です。その研究は、まるで愛にあふれた「推し活」。それぞれの推しへの思い、どうぞ受け止めてください。

導かれたように、

1隻の屏風に手が触れた。

画僧 独長との出会いは抗いがたい運命。



独長性亨筆《竹に叭々鳥図屏風》6曲1隻 江戸時代・17世紀(田万コレクション) 所蔵品台帳には「竹に叭々鳥」と記されているが、「鳥の特長からして叭々鳥(ムクドリ的一种)ではなくカラスではないか」と知念さん。今後さらに研究を進め、関係作品との比較など、一連の調査成果を学術誌で発表予定。

大阪市立美術館

〈日本中近世絵画〉学芸員 知念 理

偶然のめぐり合わせで
浮かび上がった、一人の画僧。

もともと美術が好きでしたが、日本美術史の道に進んだのも学芸員になったのも、大学での先生方との出会いやタイミングなど、自分で選んだというより何かのご縁に導かれてここまで運ばれて来た、という感覚です。この屏風の作者を突き止めたのも、そんな偶然の積み重ねで

した。学芸員歴も30年を越え、“終活”を意識しはじめた昨年、美術館の改修工事にあたって収蔵庫を再調査していると、「独長筆」の落款はありながら、その素性がわからず所蔵品台帳の作者名が空欄になっている屏風に気づきました。資料が少なく研究不十分の作品は珍しくありますが、驚いたことに数日後、ダンボール詰めしようとしていた資料の中に「独長」の名前を見つけたのです。それは独長性亨という臨済宗画僧の存在とその制作活動

を明らかにした論文で、私はすぐ独長の作品を所蔵する寺々を訪ね、屏風の作者が独長性亨であることを確認しました。30余年の学芸員人生、「美術史を揺るがす大発見」とはいかずとも、43年ぶりに所蔵品台帳の筆者名を更新するチャンスくらいは訪れるものだ、と不思議な運命のめぐり合わせに胸が高鳴りました。

ここが推し

- ♥有名作者の陰に隠れた、まだまだ調査しがいのある作者・作品がある!
- ♥地道な研究を続けていると、点と点がつながる瞬間に出合えることも。



ノ
標本のラベルには、その植物を「どこで」「いつ」「誰が」採集したかが記載される。



植物がそこにあり、
研究者が存在した事実を
植物標本は伝えてくれる。

横川さんが採集した
モウコガマの標本。

ガマ属は種子が成熟すると太い穂から綿毛が飛び出し、綿の先についた種子が風によって飛ぶことで繁殖する。こうした植物の生き様がおもしろいと横川さん。

大阪市立自然史博物館

〈植物生態学〉学芸員 横川 昌史

海を渡り崖を越え。植物のためならどこへでも。

植物相研究は、個々の地域にどのような植物が生育しているのかを明らかにする分野です。生育している植物は時代によって変化するため、各地でフィールドワークを行い、採集した植物の標本を作って研究に役立てます。この一連の研究活動が、私の推し活そのもの。調査のためには高い山でも断崖絶壁でも飛んで行きますし、根から葉っぱまでキレイに採られた標本を見ていると時間を忘れます。このモウコガマは、北海道奥尻島で別の植物をめざしてコンクリート壁を乗り越えたときに、偶然見つけたもの。ガマという植物をご存知の方は多いと思いますが、その一種であるモウコガマは在来種か外来種かも不明の謎の植物です。別の研究者から、北海道には在来のモウコガマがいるのでは?との説を耳にしており、見つけたときは「まさか!?!」と大興奮!すぐに採集し、過去の文献や道内の標本庫の調査から、奥尻島の新産植物として報告しました。皆さんにはただの植物に見えても、研究者にとっては大発見なのです。標本は採集者の名前や採集した日付・場所を記載して研究資料として保管されるため、後年の研究者が「過去に横川という人がモウコガマを見つけたんだ」「興奮しながら採集したのかな」なんて考えるのかと思うと、研究者冥利に尽きます。

ここが推し

- ♥採集した植物が台紙サイズにキレイに収まるとテンション↑↑
 - ♥過去・未来の研究者とのつながりを感じられる。
- ★2/23(木・祝)~4/23(日)までミニ展示「モウコガマ」を開催中!

大阪市立東洋陶磁美術館

〈陶磁器〉学芸員・館長 守屋 雅史

やきものにひたる日々の中、2つの窯の関係性に夢中!

学生時代は考古学研究に励み、博士課程後期に進むつもりが、縁あって大阪市立美術館の学芸員に採用されて30余年。幾多の展覧会に携わりながら、時代も国も関係なく幅広いジャンルのやきものに触れてきました。昨年からは大阪市立東洋陶磁美術館の館長に就任し、国宝を含む優れた作品を所蔵する当館で、やきものにひたる至福の日々を過ごしています。中でも私を魅了するのは、中国の北宋時代から元時代にかけて発展した定窯と磁州窯という2つの窯の関係性です。民間向けに日用品を生産する磁州窯は、定窯が作る貴族好みの美しい白磁器を真似ようと、やきものの素地に白化粧を施しますが、技術や素材の質が劣るため方針を転換します。白化粧の上にさらに黒泥をかけ、黒泥を削って文様を描く「白地黒掻落」という手法を考案し、これが民間に大流行。すると今度は定窯が、「そんなに流行ってるならウチでも」といった具合に、掻落の手法と磁州窯風の図柄を取り入れるように。真似するほうが真似されて、立場が逆転したわけです。作品を比較すると、磁州窯作品は一見高級に見せつつも、底に近い目立たない部分は手をぬいたような仕上がり。一方、定窯作品は細部まで職人技が行き届いていて、手法は同じでも2つの窯の違いがよく表れています。こうした作品の背景にある人間模様を探ることも、陶磁器を味わう楽しみ方の一つです。

ここが推し

- ♥定窯と磁州窯が切磋琢磨することで装飾技法が磨かれていった。
- ♥細部にこだわるか、簡略化するか、窯ごとの特性を見比べるのが面白い!

いますぐ作品を見たい方はこちらをCHECK!

★3/18(土)~5/21(日)まで 泉屋博古館東京

特別展「大阪市立東洋陶磁美術館

安宅コレクション名品選101」作品貸出中!

《緑釉黒花 牡丹文 瓶》

金時代・12世紀

大阪市立東洋陶磁美術館

(住友グループ寄贈/安宅コレクション)

写真:六田知弘

磁州窯



宮廷御用達の窯が

民間窯の文様を真似た!?

この人間くささも陶磁器の味わい。



《白磁鏤花 牡丹唐草文 瓶》

金時代・12世紀 大阪市立東洋陶磁美術館

(住友グループ寄贈/安宅コレクション) 写真:西川茂

定窯作品は楕円形の写実的な牡丹を描くことが多いが、この作品では磁州窯を真似て三角形の図式的な牡丹が浮かび上がっている。「真似のクオリティまで完璧主義的でしょう!」と守屋さん。

定窯

黒く塗りつぶされた大きく頑丈な扉に、門番のように建物の左手に立つ人物。右側には繊細な文字も見える。最晩年作のひとつといわれる《黄色いレストラン》。ひたひたと近づく死を感じ、この黒い扉に死後の世界を描いたのか？わずか30歳で亡くなった佐伯祐三の魂が、ここに。

佐伯祐三《黄色いレストラン》
1928年 油彩、カンヴァス 73.0×60.8cm
大阪中之島美術館蔵



大阪中之島美術館
〈デザイン〉学芸員 北廣 麻貴

30歳で亡くなった佐伯祐三の人生と作品をたどり、見えてきたこと。

私の専門はデザインですが、佐伯祐三展の準備にあたり、図録編集にたずさわりました。図録には作品や出品歴、年表などが記載されていますが、私は蓄積されてきた佐伯祐三に関する情報をアップデートしていく作業を担当。人生とともに作品をたどると、その独自性に改めて驚かされます。特にダイナミックな筆の動きと、踊るような線の美しさ。正面から建物をとらえた絵が多いのですが、輪郭線に勢いがあり、細かな部分の描写は一本一本繊細ながらもためらいを感じさせません。レンガの描き込みには同色系のグラデーションが目立ち、旺盛に絵具を使っていることがわかります。若くして家族を連れてパリに渡り、画家モーリス・ド・ヴラマンクに「アカデミック！」と一蹴されたものの、貪欲に描き続けた佐伯祐三。2度目の渡仏の際に、心身を病みながら屋外で描くことのできた最後の作品のひとつと言われているのが、この《黄色いレストラン》です。30歳で亡くなるまでのたった4年余りの本格的画業のおわりに、佐伯祐三はパリの街でどんな思いでこの絵を描いたのでしょうか。見れば見るほど新しい気づきがあるこの作品を、目の前でじっくりと鑑賞いただきたいです。

ここが 推し

- ♥ 勢いがあり、踊るような線の描写。
- ♥ 否定されても描き続ける不屈の精神。
- ♥ 作品数が多いながら、その短い画家人生に驚き！

★4/15(土)～6/25(日)まで 開館1周年記念特別展
「佐伯祐三—自画像としての風景」を開催予定！

描き続けたのだから？

佐伯祐三はパリで何を思い、

勢いのある筆運びに多彩な色使い。

大阪市文化財協会

〈保存科学〉学芸員 藤田 浩明

独自技術で、木材でも金属でも
出土した状態で未来に残す。

博物館に展示される文化財は、出土遺物をただキレイに整えて並べているだけではありません。多くの文化財は、傷みや錆び、腐朽などの問題を抱えた“満身創痍”の状態が発掘されます。そこで、私は日々全国から届く文化財の研究や保存処理に必要となる基礎データを取ります。文化財とひと口に言っても、木材、金属、布や縄、その組み合わせなどさまざまで、出土時の状況も異なります。こうした複雑な条件に対応できるのが、この保存科学室で開発された、糖(トレハロース)を用いた技術。例えば木製品は、内部の水分が蒸発すると木材が収縮・変形してしまうため、糖を溶かした水溶液を浸透させ、糖が木材内部で結晶化することで収縮・変形を防ぎます。糖の濃度を徐々に濃くしながら数カ月かけて作業を行ううちに、文化財が我が子のように可愛く思えてきます。失敗できないプレッシャーもありますが、手のかかる子ほど可愛いというのか、複雑なもののほど「どこから手をつけよう？」と燃えますね。手がけた文化財はすでに数え切れない量にのぼり、日本各地で展示・保管されています。旅行や出張の際は、「あの博物館のあいつ、どうしてるかな」なんて親心がわいてきます。

ここが 推し

- ♥ 出土した状態をそのまま残せる。
- ♥ 難易度が高いほど燃える！
- ♥ 糖など身近で手に入るものを応用するのが面白い。

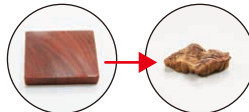
保存処理によって
命を延ばした文化財はどれも、
我が子のように愛おしい。



トレハロース含浸後 > 表面処理を行い余分な糖を除去 > 乾燥させれば展示可能な状態に



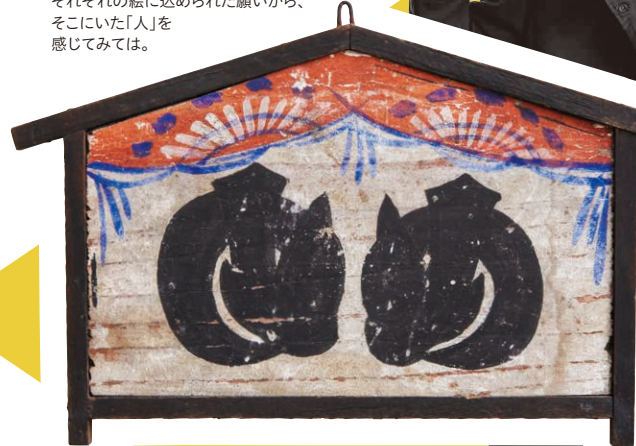
糖を用いた処理は、浸透後(写真左上)表面に浮き出た余分な糖に水蒸気を当てて取り除き(写真左下)、乾燥させれば完了。こうした技術はあえて特許を取らず、世界中の技術者に共有しているのだそう。理由を尋ねると、「貴重な資料を残せるならそれ以上の喜びはありません」と藤田さん。



★下駄など保存処理工程のわかる遺物を6/23(金)まで展示。事前電話予約にて。詳しくは7ページへ

木材、特に広葉樹は内部の水分が蒸発すると写真のように収縮・変形してしまう。

現在の絵馬は願いの内容を直接書き込むことが一般的で、絵で願いをあらわす昔の絵馬はとても新鮮な印象。
下の絵馬は「向かい目図」といい、左右に配置した「め」の文字で両目を表現したユニークな絵馬。目の悩みを癒すための願掛けと想像される。このほか、さまざまな絵馬が展示されるので、それぞれの絵に込められた願いから、そこにいた「人」を感じてみては。



衣食住、信仰、生業、行事...

ぜんぶがつながり、“人”が見える。

民俗学って、面白い。

大阪歴史博物館

〈民俗学〉学芸員 俵 和馬

山野や街を歩き、語りに耳を傾ける。
目に映る風景、心に残る言葉の先に人の姿がある。

民俗学の一つである環境民俗学という専門分野そのものが私の推し。自然と人間の関わりを民俗学的な視点でとらえるこの分野は、対象となる地域へフィールドワークに赴き、地元の方のお話を聞きながらその土地の自然環境と農作物、食文化、伝統行事、信仰、習慣などとの関わりを見出すことが主な研究活動になります。博物館では、環境民俗にとらわれず、広い視野で民具を扱っています。民具の形状や素材から、地域の歴史や特性、持ち主の工夫、職人の技術などが垣間見えた瞬間に、たまらない面白さを感じます。現在、展覧会「異界彷徨」の準備を進めるなかで、絵馬について振り返っています。絵馬は人の思いや願いを神仏へ伝えるためのもの。古代には神様への願ひ事に生きた馬を献上していましたが、それが次第に簡略化し、絵に描いた馬、つまり絵馬を奉納するようになったと考えられています。病気平癒や商売繁盛、悪縁断ちなど、さまざまな願いを見つめると、時代を経て今にも通じる祈りの水脈を感じます。科学技術がこれだけ発達した現在においても、やはり人は神に願いを捧げる。連綿と続く人間のありようを感じ取れることも、民俗学の大きな魅力だと思っています。

ここが 推し

- ♥ 地域の人びととの出会い、お話しが楽しい。
- ♥ 語りのなかから見える生活の知恵が面白い。
- ♥ 民俗のダイナミズムに触れた瞬間の喜び！

★4/28(金)～6/26(月)まで 特別企画展
「異界彷徨—怪異・祈り・生と死—」を開催！

大阪市立科学館

〈天文学〉学芸員 石坂 千春

宇宙にあまねくつながる真理。
私たちがここにいる奇跡。

私は子どもの頃から星の瞬く空を見上げるのが好きでした。闇の向こうの異世界を想像したり、宇宙旅行を妄想してみたり。宇宙への憧れが学びに変わり、学芸員の仕事に就いた今も、まだ解明されない宇宙の謎にワクワクしています。特に私が惹かれるのは、見えない重力の作用。宇宙に存在するすべてのものは重力でつながっています。私たちは地球に引かれ、地球は太陽に引かれ、太陽は他の星とともに銀河に引かれ、銀河は他の銀河と引き合いながら宇宙を動いています。どれ一つとして例外はありません。そして地球が生まれたのも、太陽が生まれたのも、銀河が生まれたのも重力の作用。重力に引かれて物体が集まる時、中心に近づけば近づくほど速く運動し、渦を作ります。これを「ケプラー運動」といいます。重力の作用で生まれた結果として、地球も太陽も他の星たちも銀河も、みんな回転しています。重力の存在は宇宙のあらゆるところを貫く真理なので、太陽のような星はそれこそ星の数ほどあり、その周りを回っている惑星は幾千も発見されています。しかし、地球のように生命が誕生した星は、まだ見つかっていません。地球上に生命が誕生し、私たちにつながるまでは、さらに気の遠くなるような奇跡の積み重ねが必要なのです。私たちと宇宙をつなぐ「重力」という真理と、私たちがここにいる「奇跡」を、空を見上げて感じてほしい…。そんな願いから、私はプラネタリウムの解説に臨んでいます。

ここが 推し

- ♥ 重力の作用で地球が誕生した。
- ♥ 宇宙に存在するすべてのものは重力でつながっている。
- ♥ 普遍的なケプラー運動に胸アツ！

「ケプラー運動」愛が高じて石坂学芸員が監修したのが4階にある「ケプラーモーションNeo」。重力場に見立てた黒い漏斗(ろうとう)の上を、ボタン操作で飛び出る球が転がり、中心の穴の近くになると速度を上げて回転して落ちていく。「この球の円舞は何度見ても飽きない。美しい！」と石坂学芸員。



重力の作用によってできた無数の星、
奇跡の重なりによって生まれた地球そして私たち。

地球そして私たち。

ミュージアム推しひと



大阪市立科学館

およそ100年前にここ中之島を訪れた
アインシュタインと肩を並べて。

《アインシュタイン像》

相対性理論をはじめ、科学の新しい扉を開いた天才物理学者、アルバート・アインシュタイン。およそ100年前に大阪市立科学館のある中之島を訪れたこともあります。展示場4階のサイエンスタイムトンネルの入口には、真っ白なアインシュタイン像が設置されています。思考をめぐらすように一点を見つめるアインシュタインと一緒に撮影すれば、天才科学者になった気分になります！



©Mai Murakawa

壁面に映し出される“影”にご注目！

第2展示室上り階段横
「プテラノドン」とそのシルエット

第2展示室の天井につるして展示されているのは、白亜紀に生息していた翼竜、プテラノドンの骨格です。次の展示室へと続く階段を上がると骨格を間近に見ることができますが、さらに注目してほしいのは、この階段で振り返ると見える壁面。飛行するプテラノドンのシルエットが浮かび上がっています。自分のシルエットと一緒に記念撮影すると、面白い写真になりますよ。

積み上げたり、
飾ったり。
感性を刺激する
木製ブロック。

tumi-isi BLACK(大阪中之島美術館限定カラー)
12,100円(税込)
大阪中之島美術館2階 ミュージアムショップ dot to dot today

大阪中之島美術館

COLLECTOR'S EYE

積み上げたり、並べたり、飾ったり、使い手の感性を刺激する [tumi-isi]。職人の手によって一つひとつ異なるサイズ・形状に面取りし、オブジェクトとしても整うように作られています。大阪中之島美術館にちなんだ限定BLACKは、インテリアアイテムとしてもおすすめ。奈良県・東吉野村を拠点に活動するプロダクトデザインレーベル「A4」のプロダクトで、素材の調達から検品まで吉野地方で行っています。

大阪中之島美術館

表記が違うのはどうして？

Q なにわ「難波」、「大坂」、「大阪」の違いを知りたい

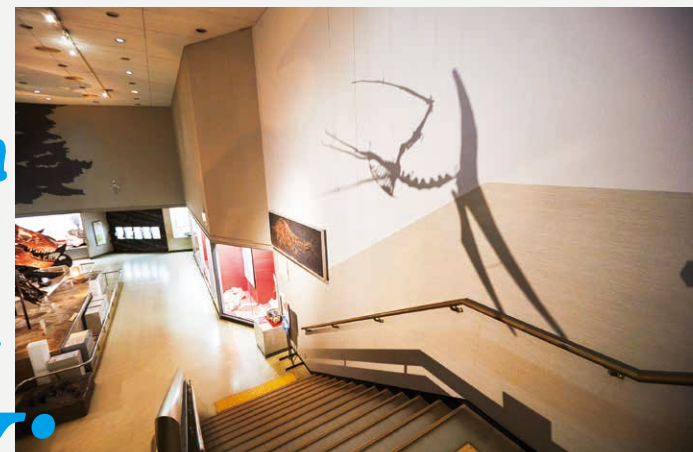
A 「難波」は古代の大阪を指す言葉で『日本書紀』などに記され、その時代に築かれたのが難波宮です。「大坂」は江戸時代によく登場し、初出は蓮如上人の御文※(1496年)とされます。「大阪」が広く用いられるようになったのは明治時代以降。「坂」が「土に返る」と読みとれて縁起が悪いことから「阪」を使い始めたとも言われています。まちの変遷とともに、呼び方も変化したようです。

回答担当:李 陽浩さん(学芸員)

※門徒に宛てて書いた手紙、御文章。

こちらも見どころ

映えなView



2025年春の
リニューアル
オープンに
向けて準備中！



重要文化財を含む約8500件の館蔵品を所蔵。リニューアル後、ぜひ見にいってください。

展示会の縁の下の力持ち！

『主に展示会の運営に関わる仕事をしています。開催の1年以上前から学芸課やマスコミとの連携などに奔走し、例えばポスターなどの印刷物は間違いがないよう何度もチェックをするので、ようやく完成したものが街中に貼られているのを見かけたときは、うれしくなりますね。そして、初日にお客さまをお迎えし、最終日に展示会が何事もなく無事に終わったときには、達成感と安堵感が胸がいっぱいになります。』

※撮影時のみマスクを外しています。

大阪市立美術館

総務課 廣本真由美さん(右)・木下道子さん(左)

ミュージアムのお仕事

みんなで作り上げている。

名作・名品の
ウラ側を
探る！



撮影:六田春彦

オモテもウラも、
オープンデータで
公開中！



展示中は減多に
お目にかかれない、
ウラ側に描かれた
花とは？

いろえ ばたんつばきもん はっかくつぼ
《色絵 牡丹椿文 八角壺》
江戸時代 肥前・有田窯

館内の展示で
よく見るのは
牡丹の面。



撮影:六田春彦

牡丹と椿を別の面に描いた《色絵 牡丹椿文 八角壺》。牡丹の面を展示することが多く、椿が描かれていることをご存じない方が多いかもしれません。この椿は一見やや簡略化されているかに見えますが、ふっくらとした花弁や丸みのある葉などの特徴をとらえ、華やかな色彩で描かれています。牡丹と椿という東洋の花をモチーフにしたこの作品、実は海外向けの輸出品として作られたもので、長くヨーロッパにあったと伝えられています。ヨーロッパではどのように飾られ楽しんでいたのか、想像してみるのも一興です。

大阪市立東洋陶磁美術館

発掘調査によって出土した大阪の文化財を見ることができます！



〒540-0006
大阪市中央区法円坂1-6-41
開館時間/9:00~17:00
休館日/土曜・日曜・祝日、
年末年始

大阪市文化財協会

見学は電話での事前予約をお願いします。
TEL:06-6943-6833



大阪歴史博物館



ミュージアムのお推しごと